

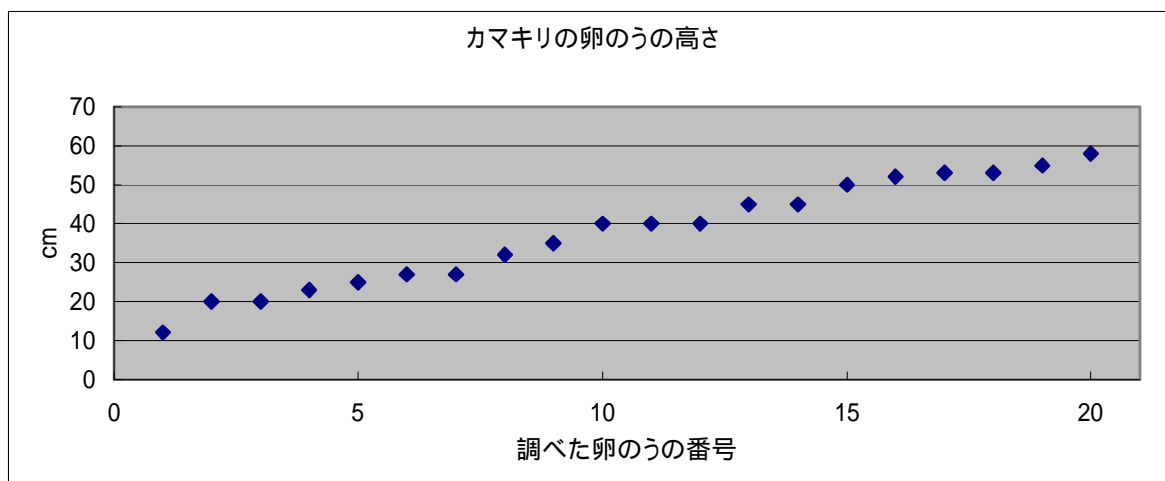
理科室からこんにちは

～ 親子で理科を楽しもう ～ 平成 20 年 10 月 20 日

カマキリの卵の高さでその年の積雪量が分かる？

「卵の位置によってその地域の降雪量がわかる。最大積雪量 + の位置に産卵され、卵を発見できればその冬の積雪量が予想できる。」巷（ちまた）に流れるまことしやかなこの話。情緒的にはロマンチックですが、私はこの話を初めて聞いたときに「んなこたねえだろ」と思ってしまったわけです。雪深い秋田県。その、雪原の上にぼこぼこ出ているカマキリの卵を見たことがありますか？ないない、ありませんって。仮にそんなことになってしまったら、冬の飢えた鳥たちは見逃してくれないでしょう。そうなったら、カマキリの絶滅です。また、高いところで産卵することは、それだけカマキリのメスのリスクが高まることにもなります。と、文句ばかり言っているかもしれませんが行ってきましたよ、原っぱに。時は 10 月 18 日土曜日。場所は美郷町千畑温泉サン・アールのそば(裏面の地図参照)です。毎年、雪深く覆われるところです。

調べた個数は 20 個。サンプル数は多ければ多いほど普遍性が得られます。5 人で行けば 100 個はいけたな..... などと考えつつ、一人寂しく調べていました。熊やスズメバチに怯えながら。それをまとめたのが、下のグラフです。



縦軸はカマキリの卵のうがついていた高さ(卵のうの中央で計測)を、横軸は卵のうの番号を表しています。横軸の 10 は、低いほうから 10 番目の卵のうという意味で、全部で 20 個分です。このグラフからは、「一定の高さに産むのではなく、12cm から 58cm までの間に産む」ということが読み取れます(主に 20～53cm の間、とも言える)。どの卵のうも、目立たぬように何かの陰になるように産み付けられていました。もし、積雪量が分かるのであれば、一定の高さ以上に一様に産み付けられるでしょう。しかし、このグラフからは、そのようなことは読み取れないのです。

今のところ得られている結論は、

「カマキリは一定の高さの範囲に卵を産む習性がある」

ということです。積雪量との相関は、現時点では分かりません。

私の論に都合がいいようにデータを捏造することもできるので、そうではないということを証明する写真、全 20 個の写真を撮ってきました。あとはサンプル数をもっと増やすことと、調べる地域を広範囲にすることです。みんなでやれば、とっても楽しい観察になると思っています。よろしかったら発見場所とその高さのデータをください。続編で紹介します。

あとは、雪が積もるのを待つばかり。わくわく。

観察場所の地図



観察した卵のうの写真

